

大幅賃上げで経済を活性化させ、勤務改善やジェンダー平等、多様な働き方の実現で職場を活性化!

フェニックス PHOENIX

＜ 発 行 者 ＞

航空安全推進連絡会議 03-3742-9359

日本乗員組合連絡会議 03-5705-2770

航空労組連絡会 03-3742-3251

http://www.kohkuren.org/

生活守る賃上げ 運航支える人材確保



アジアからの観光客が増加する那覇空港。国際線保安検査場

2025 春闘

航空大手2社の2025年3月期第3四半期決算(4-12月)は、ANAは売上1兆7027億円、営業利益1711億円、経常利益1815億円、純利益1340億円を記録しました。一方、JALは売上1兆3859億円、営業利益1322億円、EBIT1422億円、純利益910億円

要求実現に向け交渉本格化

第3四半期決算 好業績のANA・JAL

2年連続のベースアップはあったものの、物価高騰により実質賃金は依然としてマイナス傾向が続いています。生活を守るための賃金引上げ、航空需要を支える人材確保、シニアを含めた働き方の見直しなど、労働条件の改善を求める労使交渉が本格化しています。航空連は3月3日以内航の回答指定日(外航は3月31日)に、18日を航空の山場として取り組みます。

ANA 期末一時金 最大3.2ヶ月

ANAは通期見通しを第2四半期決算に続き上方修正し、売上2兆2500億円、営業利益1800億円、純利益1400億円を見込んでいます。JALは通期見通しを据え置いています(売上1兆9300億円、EBIT1700億円、純利益1000億円予想)。両社ともに、通期好業績を予想しています。ANAでは、好調な業績を受け、24年度の期末一時金を3ヶ月(グループ各社でも同様の対応)とする方針を示しました。これにより24年度の年間一時金は最大7.2ヶ月(夏2ヶ月+冬2ヶ月(夏2ヶ月+冬2ヶ月)引上

手当の増額・新設要求

主な労組の賃上げ要求

労組名	賃上げ要求
日航乗組	賃金20%アップ
全日空乗組	物価上回るベースアップ 職務手当10%引き上げ
JTA乗組	基本給15%アップ、諸手当15%アップ
CCU	ベースアップ10%、諸手当引上げ等
日本航空ユニオン	ベースアップ6%、諸手当引上げ等
NAFCO労組	ベースアップ2万円
GHU	ベースアップ23%、諸手当引上げ等
フェデックス労組	ベースアップ15%+5%
キャセイ航空労組	ベースアップ8%

※GHU=グラハン労連=JGS労組、JGS大阪労組、JGS九州労組

全日空乗組(ACA)では、ベースアップの実施と職務手当10%引き上げ、シニア乗員の一時金(期末一時金含む)引き上げを要求します。日航労連(JU)は日航乗員組合・CCU・日航ユニオンでは、グループ社員賃上げを統一要求として掲げ、日航乗組(JFU)は20%の賃上げ、日本航空ユニオン(JL)はベア6%と諸手当の引き上げや住宅・家族手当などの新設要求、一等航空整備士取得時の一時金支給(10万円)など。

日本航空キャビンクルーユニオン(CCU)は10%の賃上げ、住宅手当・職費手当の新設、乗務手当引上げ、編成数増など要求前進を目指します。JGSグループ各労組(GHU・JGS労組・JGS大阪労組・JGS九州労組)では、基本給23%引き上げ、25歳1700円(時給換算)を下回らない賃金体系への見直し、諸手当の引き上げ、ロードマスター・トイニング手当(各2万円)の新設、60歳以降の働き方の改善(勤務の選択など)、有期社員の時給1

■主な記事から■

- ▶航空連第44回航空セミナー。働き方改革、羽田事故から1年、脆弱な生産体制など学習……2面
 - ▶JCUが春闘アンケート実施。低賃金が招く退職の悪循環、3~5万円の賃上げ希望……3面
 - ▶航空連「25春闘統一アンケート」一徹しさ増す生活・労働環境が浮き彫りに。生活が苦しい6割、人員が足りない8割……3面
 - ▶安全会議だより：冬場の雪氷は大きなリスク。成田空港、雪氷時の測定を拡充……4面
 - ▶日本のITF加盟労組がコットン書記長と意見交換……4面
- 労働相談は航空連に
03-3742-3251
e-mail/honbu@kohkuren.org

2面に続く

誘導路

神経は、中枢神経と末梢神経に大別されます。中枢神経は神経全体の中心、末梢神経は全身に分布し、情報を伝達したり、刺激に応じて内臓や組織の機能を調整したりする重要な役割を担います。ヤマト運輸元社長の小倉昌男氏は「労働組合は会社の神経」と述べ、現場の声を聞くことが顧客第一につながることを指摘しました。労働組合は現場の隅々まで熟知しており、健全な企業運営のためにその役割は極めて重要です。しかし、労組からの指摘を受け止めず、不祥事や問題を引き起こす企業が後を絶ちません。近年、労働組合が職場の問題解決に努力するのだけでなく、会社の利益目標達成に向け組合員にはつばをかけ、時には差別を助長する評価制度に推進する傾向も強まっているようです。ジェンダー平等の学習会で、浅倉むつ子さんが中国電力での男女賃金差別裁判を紹介しました。同期で入社した男女の賃金分布図では、女性は下位3分の1に集中し、男性は一人か二人が混ざっていました。判決は、格差は人事評価の結果であり、男性でも昇格が遅い者がいる。原告女性は「協調性が低い」と評価された。『協調性がない』『成績が悪い』。この手の判決や、差別を指摘された労使交渉での会社答弁で耳にした台詞です。常套句ですね。

働き方改革と勤務変更

羽田事故から1年 成果と課題

航空連第44回航空政策セミナー



報告する平井副議長

航空連は2月8日、第44回航空政策セミナーをオンラインと会場参加を併用したハイブリットで開催しました。

セミナーでは、航空会社が旅客需要の回復により好業績を上げる一方で、解消しない人員不足、羽田空港での航空機事故後の変化と客室乗務員のライセンス、航空機整備をめぐる課題について、背景や解決策に向けた提起がなされました。セミナー

その1つが「職場実態に基づいた、職場全体が受け入れられる勤務編変更ルールづくり。2つ目は、「介護や子育てと両立できる、真に求められる体制の模索」です。

法的な観点や判例、各社の実態や取り組みを基に分析し、それぞれの事情を理解し、より良いルール作りに向けた取り組みを呼びかけました。

中川幹事からは、内航・外航各社の決算状況や特徴についても報告されました。公表されている直近のデータを基に、航

インバウンド4000万人

ひっ迫する生産体制

こうした状況が続くことによる影響が懸念される」と話します。

国土省の有識者による検討会では、グラハンの職員構成について、「入社3年未満が4割となり

国交省の発表によると、1月の訪日外国人旅行者数は378万人で、前年同月比では40.6%増となりました。過去最高であった24年12月の348万9800人を大きく上回り

く求められます。日本政府観光庁の発表によると、1月の訪日外国人旅行者数は378万人で、前年同月比では40.6%増となりました。過去最高であった24年12月の348万9800人を大きく上回り

たようです。一方、1月の出国日本人数は前年同月比で8.8%増の91万2300人でしたが、コロナ前の2019年同月対比では62%に留まっています。

航空各社では、3月末からの夏季スケジュールや今後の成長戦略を策定していますが、成長を描けるかどうかは人材確保にかかっています。賃金を始めとした労働条件を引上げ、働き方の見直し、多様な働き方の実現に向けて、ともに頑張りましょう。

見直しが急務と強調しました。

客室乗務員の職場からは、「事故から1年 進んだこと、課題としてのこ

したものの、客室乗務員の保安要員としての地位確立のために」と題して平

岩副議長（客室担当）が報告しました。客室トア

数は満たない客室乗務員編成は、羽田空港で発生

した航空機同士の衝突事故後、利用者の関心や署名活動の取り組みなども

あり、JALでは改善を引き出しました。今後は

他社にも広げることや、疲労リスク管理(FRM)の基準作り、国家ライセンス制の導入に向けた取り組みを強調しました。

業務量が増加するグラ

航空連、春闘学習会を開催

日本のジェンダー平等の現状を学ぶ

ジェンダー平等は社会的な課題でもあり、そう

した観点での労働環境の改善は会社の評価にもつ

ながります。航空連は2月19日、「女性差別撤廃

条約からみる日本のジェンダー平等の現在」として学習会を開催しました。

講師の浅倉むつ子さん（早稲田大学名誉教授）は、条約の内容や選択議定書の地方議会での意見書採択の状況、CEDAW

による日本審査と総括所見、総括所見を雇用分野の法改正で実現するための課題について講演しました。



出発を待つ航空機

JTA 3年未満のCA5割

業務への影響懸念

1面から続く

客室乗務員を組織するJTA乗組(JTOPS)は、客室乗務員の退職が後を絶たないことから、離職防止の観点から賃金引き上げや先任手当などの処遇改善を要求。会社

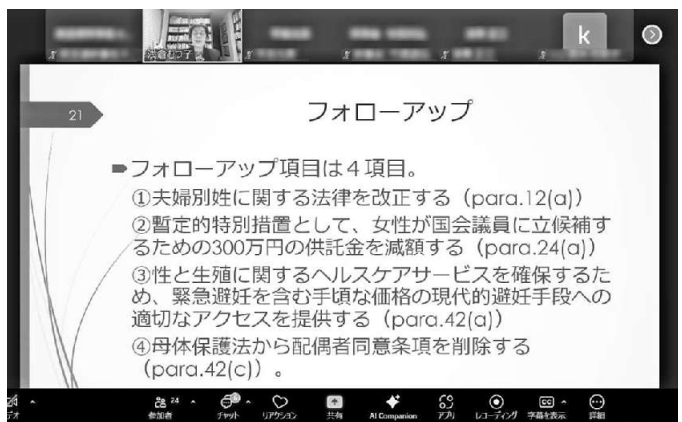
は退職理由について、賃金の問題は認めつつも、異外採用者が多いため退職につながるという説

明しています。JTOPSによると、客室乗務員の約50%が入社3年未満であり、「経験の蓄積が必要な業務において、こ

そ1つが「職場実態に基づいた、職場全体が受け入れられる勤務編変更ルールづくり。2つ目

は、「介護や子育てと両立できる、真に求められる体制の模索」です。

人員・施設 空港の受入れ強化急務



講演する浅倉むつ子さん（左上）

フォローアップ

フォローアップ項目は4項目。

- ①夫婦別姓に関する法律を改正する (para.12(a))
- ②暫定的特別措置として、女性が国会議員に立候補するための300万円の供託金を減額する (para.24(a))
- ③性と生殖に関するヘルスケアサービスを確保するため、緊急避妊を含む手頃な価格の現代的避妊手段への適切なアクセスを提供する (para.42(a))
- ④母体保護法から配偶者同意条項を削除する (para.42(c))。

学習会は録画されていますので、視聴を希望される方は、航空連事務局にお知らせください。

CA低賃金に不満 3~5万円賃上げ希望

賃上げで退職の連鎖断ち切れ

JCCU春闘アンケート

企業の枠を超えて、客室乗務員なら一人でも加入できる労働組合「ジャパンキャビンクルーユニオン(JCCU)」は、これまで主に雇い止めや会社とのトラブルなど、個別の問題を抱えて加入する事例が多く、そうした問題解決に重点を置いて活動してきました。しかし、昨年から労働条件向上を目指す、春闘にも積極的に取り組んでいます。

スカイマーク(SKY)の職場では、一人が氏名を公表して交渉を始めたことをきっかけに仲間が増え、昨年JCCUとして初めて春闘要求を提出。結果として前年より定期昇給がアップしたものの、ベースアップはゼロでした。今年は大幅なベースアップを目指します。

物価高騰が続く中での25春闘では、SKYに続き、ZIPAIR、スプリングジャパン(SJO)と3社で春闘要求を提出しました。ベースアップ要求は、SKYが3万円、ZIPが3万5千円、SJOが2万5千円です。

SKYとZIPでは、春闘要求作りに向けて職場アンケートを実施し、両社とも100件以上の回答を得ています。

「一番不満に感じること」を聞いた設問では、SKYでは「給与・賞与が少ない」の回答が圧倒的でした。これは、2017年の賃金制度改定により乗務手当40時間分が基本給に組み入れたものの、基本給自体が上がらず、実質的に40時間の乗務手当が無償労働となる低賃金制度になっていることが背景にあります。また、機材導入計画の遅れにより人員的に余裕が乏しく、一時期の年休取得が難しくなっています。

ZIPAIRでは「お給料が安い」との回答が22%で2番目に多いものの、「年休が申請通り取れない」27.9%、「勤務変更で生活予定たたず」21.2%で、勤務に関する不満が大きいことが分かりました。ただし、賃金アップの希望額については、SKYと同様に「3~5万円」が最多で、

◆賃金アップの希望額

スカイマーク	回答率
3~5万円	37.3%
5万円以上	30.4%
3万円くらい	22.4%
ZIPAIR	回答率
3~5万円	28.7%
5万円以上	25.7%
3万円くらい	22.8%

◆一番不満に感じること(上位3項目)

スカイマーク	回答率
給与・賞与が少ない	85.2%
勤務変更多い・一方的	3.7%
勤務がきつい	3.2%
ZIPAIR	回答率
年休が申請通り取れない	27.9%
お給料が安い	22.1%
勤務変更で生活予定たたず	21.2%

◆転職の意向について

	SKY	ZIP
転職を考えている	66.7%	58.3%
転職を考えていない	33.3%	41.7%

ZIP「転職考えている」6割

「5万円以上」となっており、厳しい業務に見合わない賃金に対する不満は大きいことが分かりました。

また、「転職の意向」についての設問では、SKYでは3分の2、ZIPでは約6割が「転職を考えている」と回答しました。その理由(記述回答)を分析すると、SKYでは「賃金の低さ」が圧倒的に多く、ZIPでは「勤務環境」と「賃金」がほぼ同数になっています。

会社にとって、6割もの客室乗務員が転職を考えたつづつ働いている現状は看過できません。

SKYでは、25年度から人事賃金制度の見直しを行うことが明らかになっていますが、現場の率直な声に基づきJCCU・SKY支部の春闘要求とその交渉を踏まえた制度改定が求められます。

一方、ZIPでは自主退職が止まらない中、新人層が増えたことで先任資格者の負担が大きくなり、それがさらなる退職につながる悪循環が生じています。これまで会社を支えてきた人たちが、引き続きモチベーションを持って働けるような春闘回答が必要です。

JCCUは25春闘を通じて職場の仲間をさらに増やし、要求実現に向けた取り組みを進めていきます。

航空連「25春闘統一アンケート」結果

厳しさ増す生活・労働環境

航空連「25春闘統一アンケート」

生活が苦しい 6割 人員が足りない 8割

物価上昇や業務量の増加に伴い、労働環境や生活面での厳しさが増しており、特に人員不足や業務負担の増加が深刻な問題になっています。航空連が実施した「25春闘統一アンケート」でその実態が浮き彫りになりました。

生活実態では「かなり苦しい」「やや苦しい」を合わせ59.7%に達し、多くの人が生活の苦しさを感じています。

人員については、「不足している」84.2%、「足りている」15.8%に上りました。

業務実態では「忙しくなった」31.4%、「相変わらず忙しい」49.8%、「変わらない」16.8%、「楽になった」2.0%に上りました。

健康不安は24.6%、雇用不安は9.4%、航空安全への不安は13.1%、技術力・スキル低下は17.8%、旅客サービス低下は5.8%、労働条件切り下げ不安は17.1%、労組の力の低下不安は12.3%、ウイルス感染など対策は3.9%に上りました。

この1年の間の安全は向上している12.3%、低下している33.9%、どちらも言えない60.4%に上りました。

ヒヤリハットは経験した42.1%、経験していない57.9%に上りました。

職場のハラスメントを受けたことがある8.9%、見聞きしたことがある16.7%、受けたことも見聞きしたこともない74.4%に上りました。



航空連「25春闘統一アンケート」結果

回答数：1322人 単位：%

カテゴリー	項目	割合	
生活実感	かなり苦しい	26.0 (20.1)	
	やや苦しい	33.7 (36.5)	
	まあまあだ	35.3 (36.9)	
	ややゆとりある	3.5 (4.6)	
	ゆとりがある	1.5 (1.9)	
人員	不足している	84.2 (87.2)	
	足りている	15.8 (12.8)	
業務実態	忙しくなった	31.4 (44.8)	
	相変わらず忙しい	49.8 (39.1)	
	変わらない	16.8 (14.5)	
あなたが抱える悩み事(3つ選択)	健康不安	24.6 (24.8)	
	雇用不安	9.4 (10.5)	
	航空安全への不安	13.1 (13.4)	
	技術力・スキル低下	17.8 (14.8)	
	旅客サービス低下	5.8 (5.2)	
	労働条件切り下げ不安	17.1 (19.4)	
	労組の力の低下不安	12.3 (12.0)	
	ウイルス感染など対策	3.9 (8.2)	
	この1年の間の安全	向上している	12.3 (10.6)
		低下している	33.9 (28.2)
ヒヤリハット	経験した	42.1 (26.2)	
	経験していない	57.9 (73.8)	
職場のハラスメント	受けたことがある	8.9	
	見聞きしたことがある	16.7	
	受けたことも見聞きしたこともない	74.4	

％に対し、「安全は低下している」は33.9%、「どちらとも言えない」60.4%でした。また、ヒヤリハットを「経験した」42.1%に対し「ない」は57.9%で、約半数が業務中に危険を感じた経験があることが分かりました。

ハラスメントについては「受けたことがある」「見聞きしたことがある」が合わせて25.6%にのぼり、4人に1人が何らかのハラスメントを認識している状況です。

コロナ禍以降(2022~25年度)の傾向を見ると、生活の苦しさを訴える層は約6割占め、ゆとりを感じている層は非常に少なく、人手不足は深刻で、余裕のある職場環境とは言えません。業務負担は軽減されず、多くの人が忙しさを感じています。

関心事では、健康やスキル低下、労働条件悪化への不安が強いことが伺えます。

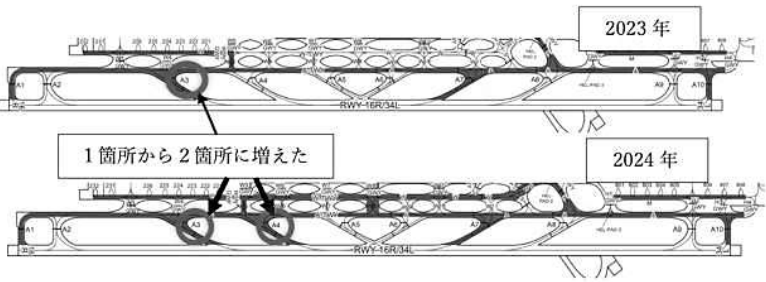
安全面では、安全向上の実感はなく、3人に1人が「安全が低下している」と感じています。また、ヒヤリハットについては、約半数が業務中に危険を感じた経験があり、背景含め分析が必要が必要です。

春闘統一アンケートにご協力いただきましたみなさん、ありがとうございました。アンケート結果については、各労組の春闘交渉や、行政への要請の際の資料として役立てさせていただきます。

冬場の雪氷は大きなりスク

成田空港 雪氷時の測定を拡充

成田空港 A 滑走路周辺の摩擦係数測定誘導路



航空機の運航において、雪氷は大きな安全リスクとなります。

成田空港では、数年に一度、雪氷による運航トラブルが発生しています。記憶に新しいのは、2023年1月25日に発生した事故です。この日、駐機スポットに進入しようとした航空機が地上作業車両と衝突し、機体が損傷しました。雪混じりの雨が降り、夜間に路面が凍結したため融雪作業が行われましたが、気温がほぼ0度で風も強かったため、再凍結が発生しました。その結果、駐機場だけでなく誘導路でも立ち往生する航空機が相

次ぎました。また、2019年には、着陸後の航空機がスリップし、高速離脱誘導路を逸脱する事故も発生しています。このような状況を受け、航空安全会議成田支部では、成田国際空港会社（NAA）に対し、雪氷時の運航安全向上を求める要請を行ってきました。

では、誘導路や駐機場の「滑りやすさ」はどのように把握できるのでしょうか。現在の基本的なルールでは、雪氷時に摩擦係数を測定し、非常に滑りやすい数値の誘導路や測定されていない誘導路について通報するこ

とになっています。しかし、一部の空港では、運航に必要な情報を収録している航空路誌（AIP）に公示された測定箇所以外では測定しないこととされており、成田空港でも測定箇所がAIPに公示されています。

2023年のAIPでは、北風運用時の滑走路34Lにおける離脱誘導路の摩擦係数測定はA3誘導路のみでした。そのため、多くの航空機が強くブレーキをかけて十分に減速した後に、その先にあるA3誘導路まで進む必要があり、滑走路からの離脱に時間がかかることで、降雪時には上空待機（ホールド）や他空港へのダイバートが発生する可能性が高まっています。また、測定対象外の誘導路が多く、出発・到着機のすれ違いが困難な状況でした。

2月17日午後、国内のITF（国際運輸労働）加盟組合とITFステイブ・コットン書記長との意見交換会が都内で開催されました。コットン書記長がITFアジア太平洋地域委員会（APR）本からはITF加盟団体の各代表らが出席しました。航空連から坂井事務局長、千明幹事（国際活動委員）が参加しました。コットン書記長からは、マラケシュで開催された世界大会の状況や、

持続可能なITFに向けた取り組みについて説明があり、「ITFビジョンを実現するためにITFを変える」と述べ、アジア太平洋地域での取り組みとして、①加盟団体を重視と戦略、②アジア



太平洋地域での活動計画、統一された責任ある体制・運営の3点を提起しました。

コットン書記長との意見交換では、航空連から国内での人手不足の現状を報告し、増加傾向にある外国人労働者の組織化や今後の課題について意見を求めました。これに対し、コットン書記長は「人手不足や外国人労働者の問題は、日本だけでなく世界的に起きている。ヨーロッパでは人手不足によりトラックが稼働できない現実もある」と指摘しました。また、「日本国内では、外国人労働者の問題については

海員組合が大きな成功を収めた。海の世界でできたので、空の世界でも不可能ではないと考えている。どの国籍の人たちが働いているのかを分析し、どのようなアプローチをするか検討することが大切だ」と述べ、航空連と協力していきたいとの意向を示しました。

協議会では、ITF民間航空部会書記長を務めていた、モチヨ氏が国際民間航空機関（ICAO）に派遣されたことが報告されました。

ITFニュース

航空連代表、人員不足や外国人労働者について発言

2月17日午後、国内のITF（国際運輸労働）加盟組合とITFステイブ・コットン書記長との意見交換会が都内で開催されました。コットン書記長がITFアジア太平洋地域委員会（APR）本からはITF加盟団体の各代表らが出席しました。航空連から坂井事務局長、千明幹事（国際活動委員）が参加しました。コットン書記長からは、マラケシュで開催された世界大会の状況や、

持続可能なITFに向けた取り組みについて説明があり、「ITFビジョンを実現するためにITFを変える」と述べ、ア

コットン書記長から

は、マラケシュで開催された世界大会の状況や、

持続可能なITFに向けた取り組みについて説明があり、「ITFビジョンを実現するためにITFを変える」と述べ、ア

コットン書記長との意見交換では、航空連から国内での人手不足の現状を報告し、増加傾向にある外国人労働者の組織化や今後の課題について意見を求めました。これに対し、コットン書記長は「人手不足や外国人労働者の問題は、日本だけでなく世界的に起きている。ヨーロッパでは人手不足によりトラックが稼働できない現実もある」と指摘しました。また、「日本国内では、外国人労働者の問題については

海員組合が大きな成功を収めた。海の世界でできたので、空の世界でも不可能ではないと考えている。どの国籍の人たちが働いているのかを分析し、どのようなアプローチをするか検討することが大切だ」と述べ、航空連と協力していきたいとの意向を示しました。

協議会では、ITF民間航空部会書記長を務めていた、モチヨ氏が国際民間航空機関（ICAO）に派遣されたことが報告されました。

春闘の労使交渉が本格化しています。労働者の頭張りや会社は十分な利益を上げています。働きに見合った賃金を勝ち取るため、さあ頑張るぞ！



女二人のニューギニア

有吉 佐和子 著



新型コロナが落ち着き、日本には「インバウンド」という言葉がいたるところで聞かれるようになった。日本食が絶賛されています。

高価なおにぎり屋さんにも多くのインバウンドの皆さんが並び、数年前は「米余り」が問題になっていたが、今では「米不足」と「高

い米が問題になり、ついに政府は「備蓄米1万トン放出を決定」しました。それでも米の価格は安くならない。ともいわれています。

さて、海外へ行く状況にはなったものの、田舎や海外の物価

読書のススメ

高、それと安全面では紛争が続いている地域も多いため、私のパスポートにこれから出国印を見る事ができるのでしょうか。もうしばらくは「世界街歩き」を見たり、読書で旅行気分を楽しみたいと思います。

そんな中、本屋さんをブラブラしていたら「ニューギニア」という文字が目にはいりました。手に取ってみ

34Lでは高速離脱誘導路が2箇所拡充され、誘導路・エプロンエリアの測定範囲も広がりました。この改善は、航空安全会議が現場の声をNAA

Aに伝えた結果であり、NAAが成田空港の安全向上に真摯に取り組んだ証ともいえます。

今後も、航空安全を指し、航空安全会議成田

支部とNAAがそれぞれの立場を理解し合いながら、成田空港がさらに良くなっていくことを願います。

夏が好きな私としては、もうすぐ寒い冬もお別れと思うところがウキウキしてきます。冬眠していた生き物たちも目覚め、冬ごもりしていた虫もそろそろ土から出てくるのです。この頃を「啓蟄」といいますが、「さあ働くぞ」と意気込み始める日でもあります。

けいごむ

2月に2度にわたり日本列島を襲った強烈寒波は、北陸や東北の日本海側や北海道に大雪をもたらしました。大雪の被害に見舞われた方々にお見舞い申し上げます。

強烈寒波の影響で、ようやく、庭の梅の花の咲き具合が遅く6〜7分咲き程度です。3月の声が聞こえるころには見ごろを迎える伊豆河津の河津桜も、寒波の影響で花芽の発育も遅いようで、満開は3月上旬と予想されています。民家の庭先に見事に咲く河津桜を、また見たいものです。

驚きと捧腹絶倒の滞在記

高、それと安全面では紛争が続いている地域も多いため、私のパスポートにこれから出国印を見る事ができるのでしょうか。もうしばらくは「世界街歩き」を見たり、読書で旅行気分を楽しみたいと思います。

本書とは関係ありませんが、私は以前、「ニューギニア航空をめぐる労働争議」に関わったことを思い出しました。